

県政
Pick up 1酒田沖を想定地域にした洋上風力発電の
事業化を目指す検討部会を令和3年度に設置。

県地域協調洋上風力発電研究・検討会議が令和3年2月に開かれ、遊佐町沖に加えて酒田市沖でも洋上風力発電の事業化を目指して、「酒田沿岸検討部会」を令和3年度に設置することを決めました。検討部会は、地域住民や海域利用者、内水面関係者、有識者、市や県など行政関係者30人程度

で構成され、①導入可能な洋上風力発電の想定海域と発電規模、②海域利用者との調整、③環境や地域経済などへの影響、④洋上風力と地域との共生や地元への貢献策としての漁業協調策と地域振興策などを検討します。利用海域は、遊佐沖に接する南側と酒田港の河口部以南を想定しています。

県政
Pick up 2「一般社団法人北前船交流拡大機構」が
スポーツ文化ツーリズムアワード2020を受賞。

スポーツ庁、文化庁、観光庁は、スポーツや文化芸術の融合により生まれる地域の魅力を国内外に発信し、観光振興を図るために「スポーツ文化ツーリズム」を推進。その「スポーツ文化ツーリズムアワード2020・文化ツーリズム賞」に、北前船交流拡大機構が選出されました。北前船交流拡大機構は、2007

年から「北前船寄港地フォーラム」を各地で開催。江戸から明治にかけて日本海沿岸の交易を支えた北前船による賑わいを復活させようとする取り組みです。沢山の地域と連携し、一つひとつを大きなイベントに仕立てた点、北前船によってもたらされた食文化や生活文化が再認識された点が評価されました。

県政
Pick up 3遊佐町鳥海南工業団地のバイオマス発電所
整備事業に東北電力が出資参画。県内最大級。

東北電力は、遊佐町に建設される「鳥海南バイオマス発電所」の発電事業へ出資参画することを発表。この事業は、再生可能エネルギー事業などを展開する(株)オリンピアが2016年に「鳥海南バイオマスパワー(株)」を設立。工業団地の用地取得に向けた協議を県と進めるとともに、団地周辺の住民を

対象に説明会を開催。自主的に環境影響評価(環境アセスメント)を行い、2020年には環境保全の協定を酒田市、遊佐町と締結しました。同発電所は、輸入木質ペレットを主な燃料とする出力規模5万2,900kW。バイオマス発電所としては県内最大級で、2024年度中の運転開始を予定しています。

県政
Pick up 4県水田農業研究所「水稻品種『つや姫』育成
グループ」が、日本育種学会の学会賞を受賞。

日本育種学会は、育種に関する研究や知識の普及を目的に、大学や国、都道府県、民間企業の研究者などで構成。学会賞は昭和28年に創設され、育種研究で功績のあった団体・個人を顕彰しています。「つや姫」育成グループは、コマの評価基準を「白さ」「つや」「外観」の3項目に細分化し、「白さ」に

ふるさとから地方再生、元氣発信

ついては機器を使って数値化して客観的に評価する手法を確立。育種への貢献は大きいとされました。また「つや姫」は、日本穀物検定協会の食味ランキングで、デビューから11年連続で最上級の「特A」ランクを獲得。加えて生産者認定制度を設けて、品質やブランドの維持を図っていることも評価されました。

石黒さとる
活動日誌令和2年11月3日(火)
大浜OB会主催の酒田港
クリーン作戦に参加(酒田市)

強風のなか約1時間、散乱するゴミの回収活動を行いました。少しでも酒田港がきれいになるのは、清々しいものです。

令和2年11月26日(木)
安田バイパス早期完成を実現する会
の要望活動に参加(三川町)

庄内総合支庁建設部長に、国道344号の安全で円滑な走行のために、安田バイパスの一日も早い完成を要望。(写真撮影時のみマスクを外しました)

令和2年11月28日(土)
酒田駅前再開発事業
A棟竣工式典に出席(酒田市)

駅前再開発事業竣工は、酒田市民の念願が形になった日です。コロナ禍のなか、明るいニュースが届くと嬉しくなります。

令和2年12月定例会本議会議
代表質問を担当(山形市)

「子育てするなら山形県」の確立」「非効率石炭火力発電のフェードアウトへの対応」などの代表質問を担いました。

県民の生命と
心安らかな暮らしを
守るために令和2年12月13日(日)
日東道「酒田みなとIC-遊佐比子IC」開通式に出席(酒田市)

日本海東北自動車道「酒田みなとIC-遊佐比子IC」間(延長5.5km)が開通。遊佐町に待望の高速道がやってきました。

令和3年2月9日(火)
インターン生とともに県議会と
県農林水産部を訪問(山形市)

山形大学農学部と学生とともに県議会を見学。その後、県の農林水産業の現状と課題、進行中の施策を学びました。

令和3年2月15日(月)
インターン生とともに
庄内総合支庁を訪問(三川町)

学生とともに庄内総合支庁と日本海総合病院を訪問。命と健康を守るために、農業と医療の重要性を再認識しました。

令和3年3月1日(月)
2月定例会の本会議に
和装姿で議場入り(山形市)

和装振興を目的とした着物講座の趣旨に賛同して10回目の参加。コロナ禍を少しでも和めることができれば幸いです。写真撮影時のみマスクを外しました

令和3年度当初予算の主な事業(山形県)

みらい企画創造部●移住・関係人口創出拡大推進事業(移住希望者への関心が高い「仕事」や「山形の魅力」などのアプローチにより、県への移住・定住を推進)……………2,410万2,000円
環境エネルギー部●ゼロカーボン社会構築推進事業(「ゼロカーボンやまがた2050」の達成に向けた取り組みを推進して、県民各層の気運を醸成)……………2,873万2,000円
子育て若者応援部●出産費用負担軽減事業(幸せな子育て環境を整備するために、出産育児一時金と県の「出産支援給付金」を支給)……………1億0,751万5,000円
健康福祉部●新型コロナウイルス感染症緊急対策費(新型コロナウイルス感染症に対応するために、感染症対策および医療提供体制の強化)……………139億7,802万7,000円

新型コロナウイルス感染症患者拡大に
対する医療提供体制確保について

予算特別委員会

石黒党・議員／質問●

全国的な状況として、新型コロナウイルス感染症患者を受入れる医療機関が誹謗中傷にさらされたり、一般診療患者の診療控えが拡大したり、コロナ患者対応による医療崩壊寸前など、最前線である医療機関が、経営を含めて危機的状況であるとの報道が続いています。令和3年2月28日現在、県では感染者数543人、入院中が14人、退院などが517人、死亡の方が15人です。新型コロナウイルス感染症患者への対応や病院経営には、医師、看護師、各種技師など医療スタッフの確保が重要な課題です。

令和3年2月に日本海総合病院を訪問する機会があり、コロナ禍でその存在を知ることになった「ECMO(エクモ)」を担当する「ME(メディカルエンジニア)

師、各種技師など医療スタッフの体制確保に大きな影響を受けたと思います。具体的にどのように職員配置を調整し、医療提供体制を確保したのかを伺います。病院事業管理者／回答●

病院事業局として医療提供体制の確保に積極的に取り組みました。中央病院は、新型コロナウイルス感染症患者を県内で最も多く受け入れており、新型コロナウイルス感染患者専用の病棟を設けるなどして専用病床を確保したほか、急性期の重篤な患者を治療するためのICUにも多くの新型コロナの重症患者を受け入れました。これら新型コロナウイルス感染患者の治療には、多くの医療スタッフの配置が必要となります。中央病院は高度急性期医療を担っており、通常、一般病床では入院患者7人を1人の看護師が受け持ち、ICUでは入院患者2人を1人の看護師が受け持つ手厚い体制です。新型コロナウイルスの重症患者の

場合は、さらに多くの看護師が必要であり、入院患者1人を1人の看護師が受け持つこととなります。感染が再拡大した令和2年12月には、コロナ専用病床の利用率が90%を超え病床がひっ迫しましたので、専用病棟を2つに増やし、コロナ専用病床数を39床から45床に増床して対応。一方で3つの病棟および高度治療を行うHCUの休床など、最大時で56床を休床して新型コロナウイルス対応に必要な体制を確保。つまり、休止する部分で生み出された人員を、機能を強化する部分へ振り向けることにより、新型コロナウイルス対応に必要な看護師の体制を確保しました。新庄病院では、1つの病棟をゾーニングにより26床を休床して、コロナ専用病床を7床設けて、担当する看護師を確保しました。

このように各病院で工夫をすることで、病床や人員の配置調整を行うことにより新型コロナウイルス感染患者

を受け入れました。今後も保有する医療資源を十分に活用し

新型コロナウイルス感染症患者受入れによる
県が運営に参画する病院の経営状況について

予算特別委員会

石黒党・委員／質問●

日本海総合病院、公立置賜総合病院も、県立病院と同様に新型コロナウイルス感染症患者の受入れによる影響は、どのような状況であったのか。また、その影響による令和2年度の経営はコロナ禍以前と比較してどのような変化が想定されますか。

健康福祉部長／答弁●

県が運営に参画する病院は、日本海総合病院と公立置賜総合病院です。両病院は、令和2年3月に新型コロナウイルスの感染が確認されて以降、感染症指定医療施設として新型コロナウイルスの感染患者を受け入れて診療にあたりました。両病院の新型コロナウイルス対応による経営への影響は、4月から

で、県民の命を守るために必要な医療提供体制を確保します。

6月期は入院・外来患者数が減少し、医業収支は前年度に比較して落ち込み、先行きが見通せない状況でした。このため、両病院に対して、空床補償や感染防止のための設備整備への支援、経営の安定化を図るための支援策に取り組みました。その後、夏頃に新型コロナの感染が落ち着いたなか、両病院が徹底した感染防止対策に取り組み、秋以降は、通常の診療ベースに戻って患者数が回復傾向になりました。さらに空床補償をはじめとして政府による支援策が拡充され、両病院とも経営努力が効果を上げて病院運営に支障のない程度まで改善していると聞いています。県は、両病院においても新型

コロナから県民の命を守るために、感染症指定医療機関としての役割を果たすとともに、庄内および置賜地域の基幹病院として求められる救命救急や高度・専門医療の機能が持続的に確保できるように、両病院の経営状況を注視していきます。

石黒党・委員●

新型コロナウイルス感染症が、私たちに何を教訓として残そうとしているのか。『自治と分権』に掲載された「全国公私病院連盟会長・邊見公雄医学博士」の投稿には、医療について知識を持たない私でも感銘を受けました。邊見先生の投稿は、新自由主義のなかで、行政効率のみを追求する日本の医療制度のあり方を憂いておられる発言でした。邊見先生が感銘された、神戸市原院長の言葉を紹介します。『彼女(グレッタ・トゥーンベリ)を突き動かす絶対的な確信は、17歳

の彼女をして国連での演説を可能にし、トランプの侮辱にもブーチンの執拗な攻撃にも怯むことをさせない。しかしその彼女も、世界中全ての人の無知と嘲りを自覚した時、哭いた。グレッタの涙をみた天主は、美しい地球を我が物顔で破壊し、富を貪り、万物との共生を顧みなくなった人類を冷たい雨に打たせることにした。(中略)人類が本当に自分たちの過ちを顧みる日まで、この驟雨は繰り返し私たちを襲うこととなる。神は容赦なく何度でも私たちを打ち払う。その思いは心底私を畏れさせる』と書かれた木原先生の感性に、邊見先生も同調しています。私たちは、コロナによって、たった1年で多くの変わらざるを得ない社会的基盤を自覚することとなりました。コロナ後の県民生活が一步でも明るい未来へ進むための議論を深めることを肝に銘じて、次に進みたいと思います。